

特集——

物語はどこへ？

—アニメ・マンガ・活字—

児童文学作品が原作になった映画やアニメーションはひきもきらない。活字で紡がれた物語が他の表現媒体に乗って伝わっていくとき、子どもたちが受け取っているものは何なのだろう。そこには、どういう体験が成立しているのか。

マンガやアニメーションが日常にあふれる中で育ってきた世代が紡ぐ作品を、いよいよ多様化するメディアの海で育っている子どもたちが読む。活字人間が書き、そして読んでいた時代とは、決定的に物語の有り様が変わってしまっているのではないか。

物語の行方をさぐってみたい。